

下北沢駅西側エリア 公共施設設計内容等報告会

プログラム

1 . 開会

2 . 報告

世田谷区小田急線上部利用計画検討の経緯

公共施設設計内容等

- ・ 下北沢駅西側エリア（ワークショップ内容の振返り）
- ・ 立体緑地
- ・ 通路
- ・ 緑地・小広場

3 . 意見交換

4 . 閉会

平成30年3月8日（木） 19時00分～

世田谷区 小田急線上部利用計画検討の 経緯

世田谷区小田急線上部利用計画検討の経緯

世田谷区小田急線上部利用計画検討の経緯

H15年度	H16年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
事業認可・事業着手 連続立体交差事業等（鉄道地下化）	上部利用方針策定	上部利用計画（区案たたき台）・公表 区民意見検討委員会設置 1	区民意見検討委員会による中間まとめ・公表 区民アイデア募集	区民意見検討委員会による取りまとめ・公表 区民意見募集	東日本大震災 区民意見募集 上部利用計画（区案）取りまとめ・公表	オープンハウス開催 2 まち歩きワークショップ開催 3 シンポジウム開催 4	基本的な考え方（素案）・公表 上部利用計画（区案）追加、修正の （ゾーニング構想）・公表 小田急線上部利用の施設配置 オープンハウス等による区民意見募集	世田谷区上部利用計画（素案）策定・公表	世田谷区上部利用計画 策定・公表 オープンハウスによる周知

2 オープンハウスの様子

3 まち歩きワークショップの様子

1 区民意見検討委員会の様子



4 シンポジウムの様子

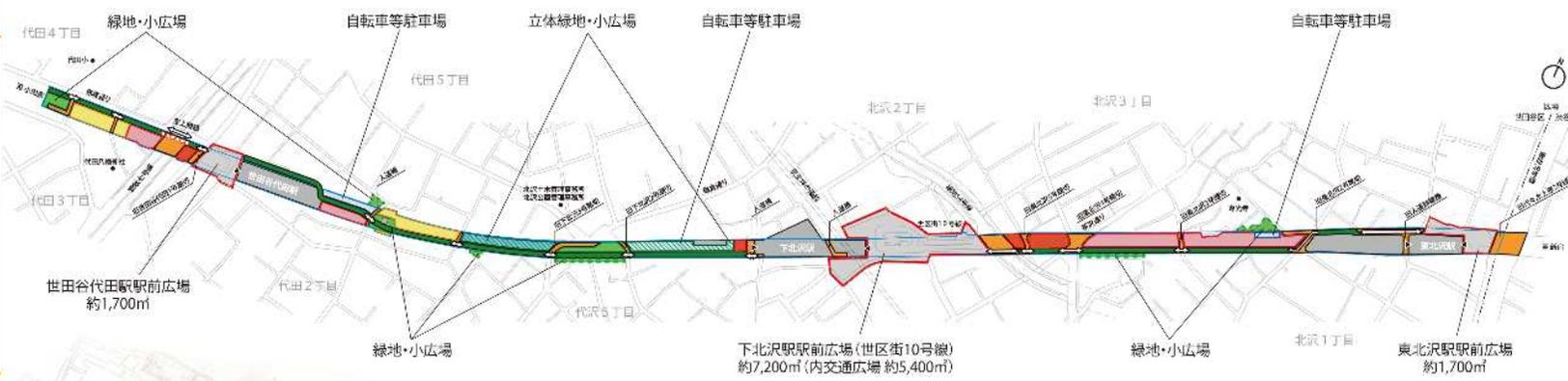


小田急線上部利用の施設配置（ゾーニング構想）

【平成25年度】

区の上部利用のコンセプト：「防災、みどりの基軸づくり」

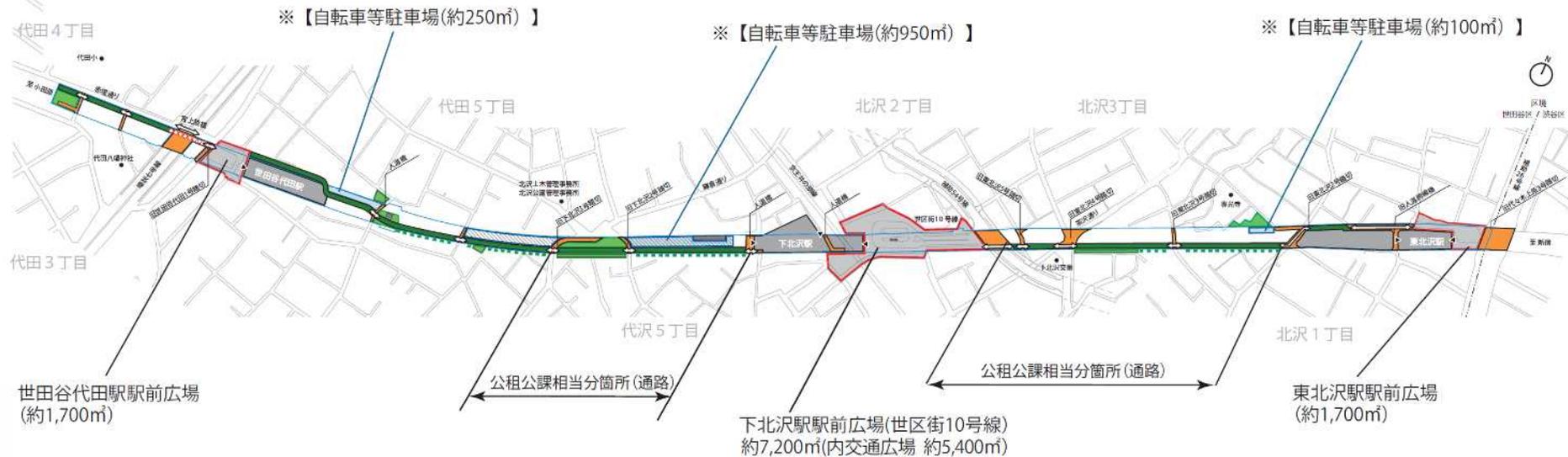
世田谷区小田急線上部利用計画検討の経緯



凡例	
	駅前広場 (世田谷区整備)
	道 路 (〇)
	緑地・小広場 (〇)
	緑地・小広場 (〇) (施設・法外)
	立体緑地・小広場 (〇)
	自転車等駐車場 (相応電鉄整備)
	交 差 路 (公道)
	副都心核 (世田谷区整備)
	注 意 区 域 (小田急電鉄)
	防 災 核 心 区 域 (〇)
	住 居・商業・立地核心区 (〇)
	自転車等駐車場 (相応電鉄整備)
	駅前商業核心 (商業等)
	出入口
	東京都防災事業による地下鉄トンネルの地下利用区域 (上野村1丁目区)

世田谷区小田急線上部利用計画 施設配置図

【平成27年度】



施設の種類	面積 (㎡)
駅前広場	約10,600
通路 (内公租公課相当分)	約4,000 (約1,900)
緑地・小広場	約2,900
立体緑地	約1,750
※自転車等駐車場	約1,300

※数量については、現時点での概算であり、今後実施する協議、測量等により変動します。

凡	例		
↔	交差道路等通行の安全性の確保	■	駅前広場 (世田谷区整備)
■	鉄道事業者施設(駅舎等)	■	通路 (")
▶	改札口	■	緑地・小広場 (")
■	交差道路(公道)	■	立体緑地 (")
○	環七横断橋 (世田谷区整備)	■	※自転車等駐車場 (小田急電鉄整備)

世田谷区小田急線上部利用計画

【平成27年度】

立体緑地 平面イメージ図



※2 立体緑地 (構想範囲)

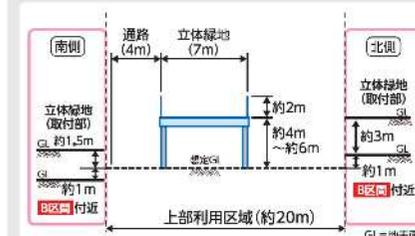
C区間は、主に、駅利用者や来街者のために小田急電鉄が駐車場を整備する区間です。

将来、街の発展に併せ、様々な利用(新たな土地利用等)を受け入れられるような伸びしろを想定し、必要な時にはデッキをさらに延ばしていくことを可能とする範囲と、位置付けます。

※1 一体的整備区域

下北沢駅西側から延びる緑化したデッキと、地上部の通路や緑地・小広場を一体的に整備する区域です。

例えば、デッキからB区間の緑地へテラス状の階段を配置し、トレリス(イメージ図③参照)等によるC区間の積極的な緑化などを施し、機能的、景観的にも調和のとれた魅力ある空間となるように整備していきます。今後、ワークショップ等の場を設け、デザインや設え、管理運営など、区民の皆さまとともに考えていきます。



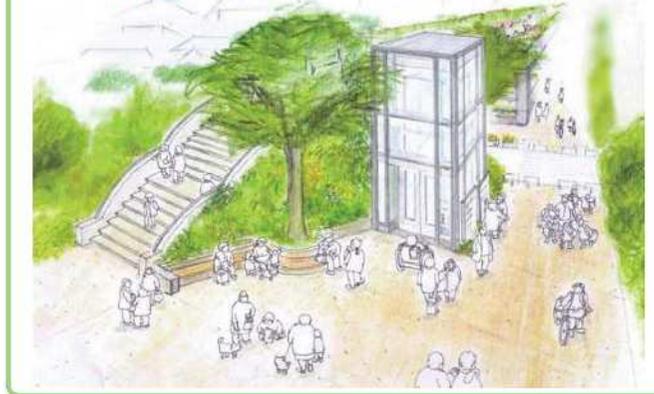
立体緑地A区間断面イメージ

デッキ上部分は、人が円滑に通行できる幅員の確保、歩いて楽しめる空間の創出のため、植栽等の配置を考慮し、総幅員を7mとします。また、ユニバーサルデザインや周辺へのプライバシー確保などに配慮します。

イメージ図③ トレリス



イメージ図② B区間 階段部分



イメージ図① A区間 デッキ上部分



世田谷区小田急線上部利用計画検討の経緯

(C) 地形を活かして緑を確保した利便施設ゾーン

○ゾーンの現況と位置づけ

下北沢駅西側は、北側の高台と南側の建物に挟まれた谷のような空間であり、下北沢駅に向かう新たな動線となる。駅に近い立地条件と地形の高低差を活かした利便施設の立地誘導や、みどりの確保を図る。また、鎌倉通り交差点部分は駅西側の玄関口にあたることから、人々が集い憩う空間形成を目指す。

○通路機能

駅へのアプローチに相応しい安全で快適な歩行者・自転車等通路（緊急車両の進入路を兼ねる）を確保する。

○みどり

鎌倉通り交差点周辺にまとまりのある緑地を確保する。また、下北沢駅西側においても、屋上緑化や壁面緑化などにより、駅周辺のみどり環境の向上に取り組む。

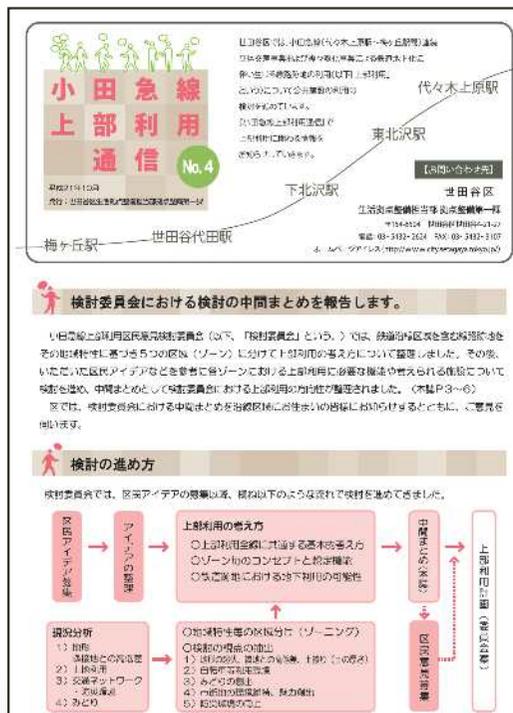
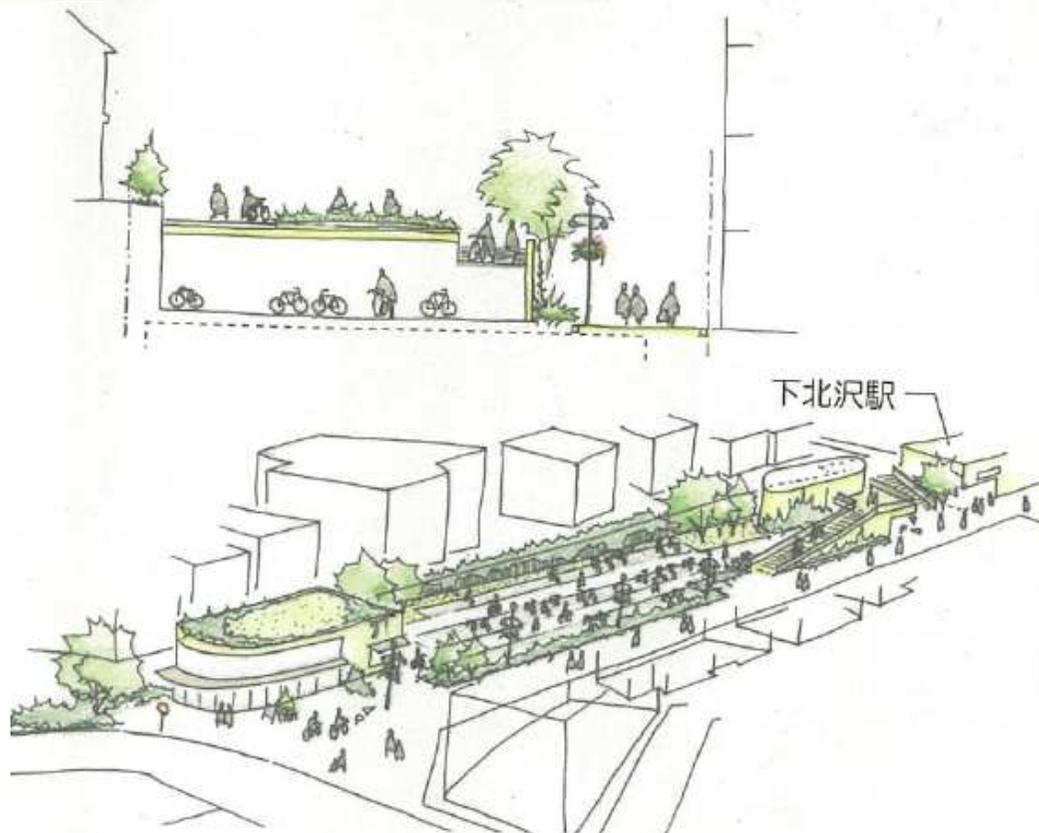
○施設機能の例

例えば、鎌倉通り交差点に面した部分は人が集いやすい街角広場や利便施設の立地が考えられる。自転車等駐車場は駅との連続性に配慮し、通路と一体となった魅力的な駅アプローチとすることが考えられる。

小田急線上部利用通信 NO. 4 (抜粋)

【平成21年10月発行】

施設の立地イメージ (下北沢駅西側)



小田急線上部利用通信NO. 6 (抜粋)

【平成23年3月発行】

提案する小田急線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)上部利用計画

上部利用に求められる機能

- 駅前広場 (交通広場整備、防災広場整備、駅前広場整備)
- 連続する通路 (日常的な利用、災害時の防災活動の利用など)
- みどりの軸の形成 (各駅の緑化とみどりの連続性)
- その他の施設 (自転車駐輪場、広場・緑地、様々な施設など)

上部利用計画(施設配置)

提案する計画では、都市計画等により配置、規模などを定めている駅前広場を中心として、通路、広場・緑地及び自転車駐輪場などについて、周辺土地利用との整合、地形条件、鉄道施設などの関係を考慮して配置しました。
また、上部利用の将来イメージが、より分かり易くなるようイラストを追加しました。

世田谷代田駅駅前広場付近の整備イメージ



下北沢駅交通広場付近の整備イメージ



東北沢駅駅前広場付近の整備イメージ



代田小前付近の整備イメージ



鎌倉通り付近の整備イメージ



下北沢駅小田原方改札口付近の整備イメージ



茶沢通り付近の整備イメージ



※この計画は、図の考え方を基本としたものであり、今後、土地所有者である諸団体の意向や建設費や土木事業等の実現性がある程度確認された上で、具体的な計画が決定されます。また、各駅周辺のイメージは、あくまでイメージであり、必ずしも実現するものではありません。

小田急線 上部利用 通信 NO.6

世田谷区小田急線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)上部利用計画

提案する上部利用計画について

上部利用計画の検討経緯と今後の予定

下北沢駅小田原方改札口付近の整備イメージ

現在の状況

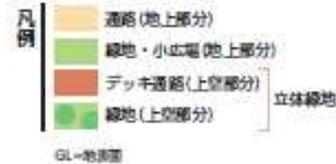
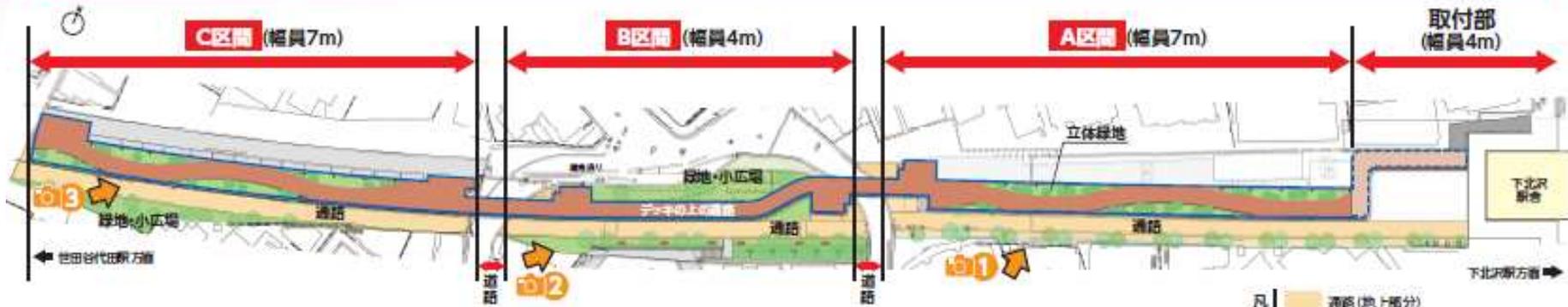
提案する整備イメージ

- 土地利用
- 駅前広場
 - 通路
 - 広場・緑地
 - 自転車駐輪場
 - 自転車駐輪場ゾーン
 - 茶室・カフェゾーン
 - 自転車駐輪場ゾーン
- 上部利用に配慮する施設
- 通行の連続性を確保
 - 交通安全確保等の安全性の確保
- 独立事業等による地下化区域(世田谷区)
- 鉄道事業者施設(駅舎等)
- 改札口

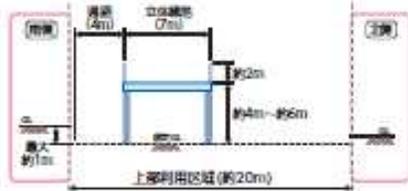
世田谷区小田急線上部利用計画（素案）

【平成26年度】

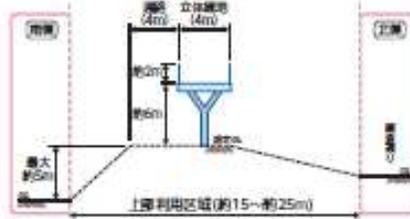
立体緑地（イメージ図）



C区間断面イメージ



B区間断面イメージ



A区間断面イメージ



立体緑地鳥瞰イメージ



C区間 ③方向イメージ



B区間 ②方向イメージ



A区間 ①方向イメージ

郵便はがき

154-8766

377

4377

世田谷区役所
生活拠点整備担当部
拠点整備第一課 行

世田谷区小田急線上部利用計画

【平成27年度】

立体緑地 平面イメージ図



※2 立体緑地(構想範囲)

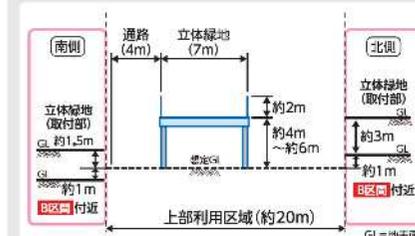
C区間は、主に、駅利用者や来街者のために小田急電鉄が駐車場を整備する区間です。

将来、街の発展に併せ、様々な利用(新たな土地利用等)を受け入れられるような伸びしろを想定し、必要な時にはデッキをさらに延ばしていくことを可能とする範囲と、位置付けます。

※1 一体的整備区域

下北沢駅西側から延びる緑化したデッキと、地上部の通路や緑地・小広場を一体的に整備する区域です。

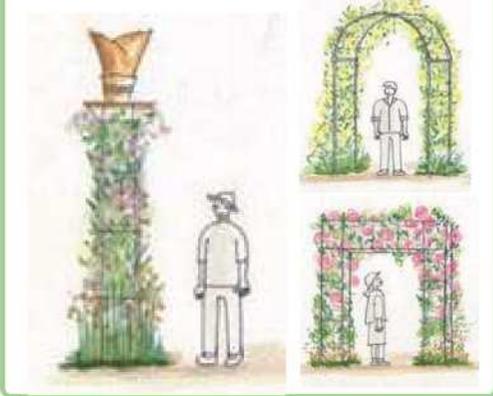
例えば、デッキからB区間の緑地へテラス状の階段を配置し、トレリス(イメージ図③参照)等によるC区間の積極的な緑化などを施し、機能的、景観的にも調和のとれた魅力ある空間となるように整備していきます。今後、ワークショップ等の場を設け、デザインや設え、管理運営など、区民の皆さまとともに考えていきます。



立体緑地A区間断面イメージ

デッキ上部分は、人が円滑に通行できる幅員の確保、歩いて楽しめる空間の創出のため、植栽等の配置を考慮し、総幅員を7mとします。また、ユニバーサルデザインや周辺へのプライバシー確保などに配慮します。

イメージ図③ トレリス



イメージ図② B区間 階段部分



イメージ図① A区間 デッキ上部分



世田谷区小田急線上部利用計画検討の経緯

下北沢駅西側エリア （ワークショップ内容の振り返り）



ワークショップの様子

北沢デザイン通信 号外
平成28年3月
平成28年（2016年）3月発行
世田谷区北沢総合支所づくり課
拠点まちづくり第一課

～思いつながる、人つながる、街つながる～

下北沢駅西側エリアの検討ワークショップを開催しました

ワークショップの目的

世田谷区では、小田急線（代々木上原駅～榎ヶ丘駅間）建替立体交差事業等による鉄道地下化に伴い生じる跡地利用（以下、「上部利用」という）の検討を進めてきました。平成27年8月に、「世田谷区小田急線（代々木上原駅～榎ヶ丘駅間）上部利用計画」をまとめることととも、上部利用計画の内容を紹介する「オープンハウス（パネル展示等）」や、「北沢デザイン会議」を開催するなど、その内容を広く発信してきました。

今回、上部利用のうち下北沢駅西側エリアを対象として、区の整備プラン（緑地や道路等）を検討することを目的に「下北沢駅西側エリア緑地・道路検討ワークショップ」を開催しました。

対象地（下北沢駅西側エリア）の概要

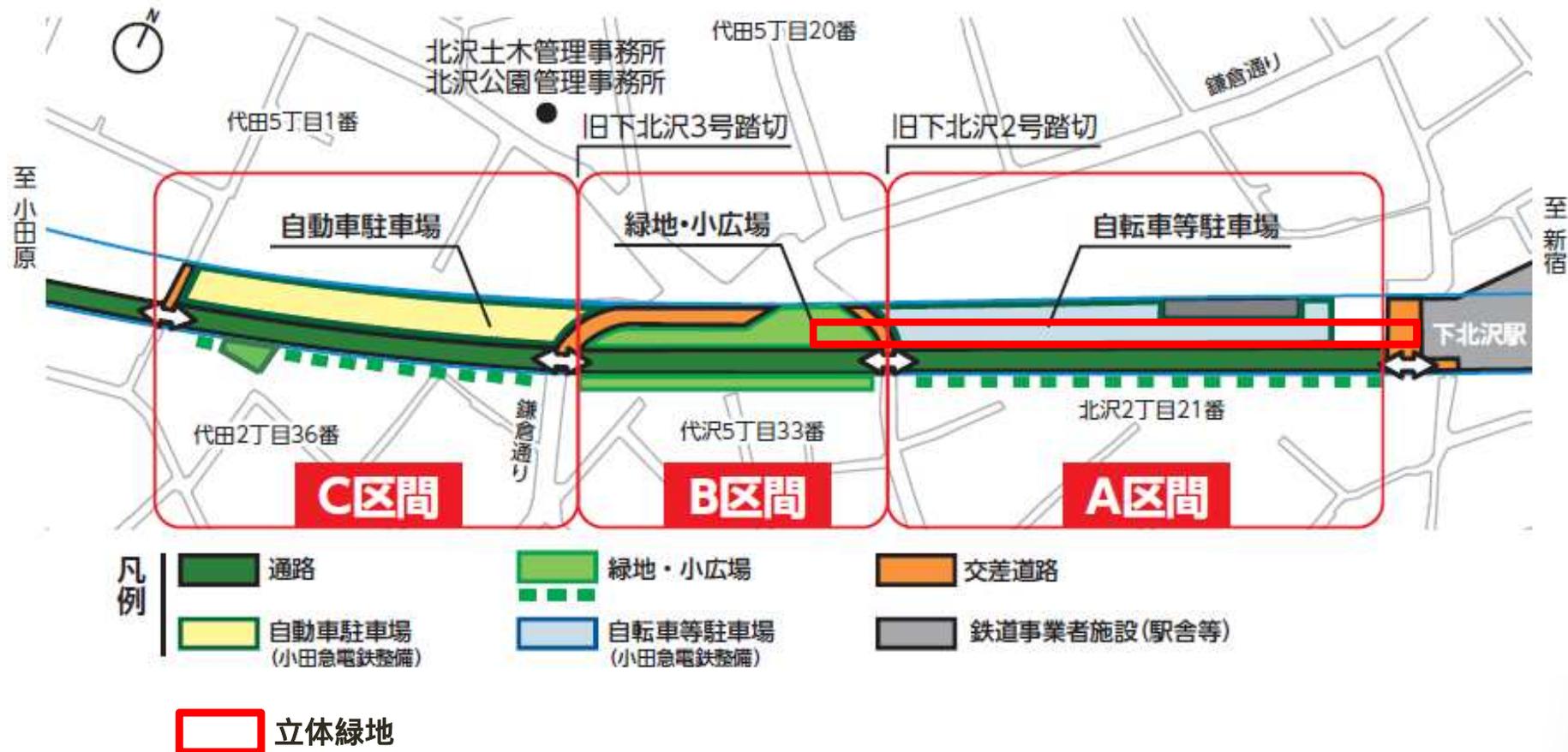
ワークショップで検討対象とした区域は、小田急線（代々木上原駅～榎ヶ丘駅間）上部利用のうち、下北沢駅の西側エリア（約300m）です。

ワークショップの経過

ワークショップは、平成27年度に全3回、開催しました。

第1回	第2回	第3回
<p>「思いや考えを共有する」 下北沢駅西側エリアの緑地や道路に対する皆さんの思いや考えを共有しました。</p>	<p>「アイデアを出し合う」 エリア全体の整備コンセプトについて確認し、3つの整備プラン（案）をもとに、意見交換を行いました。</p>	<p>「整備イメージをつくる」 これまでの検討をふまえて作成した整備イメージ（案）について、意見交換を行いました。</p>
平成27年10月17日（土） 参加者 45名	平成27年11月28日（土） 参加者 46名	平成28年2月6日（土） 参加者 38名

下北沢駅西側



第1回

「思いや考えを共有する」

下北沢駅西側エリアの緑地や通路に対する皆さんの思いや考えを共有しました。

平成27年10月17日(土)
参加者45名

第2回

「アイデアを出し合う」

エリア全体の整備コンセプトについて確認し、3つの整備プラン(案)をもとに、意見交換を行いました。

平成27年11月28日(土)
参加者46名

第3回

「整備イメージをつくる」

これまでの検討をふまえて作成した整備イメージ(案)について、意見交換を行いました。

平成28年2月6日(土)
参加者38名

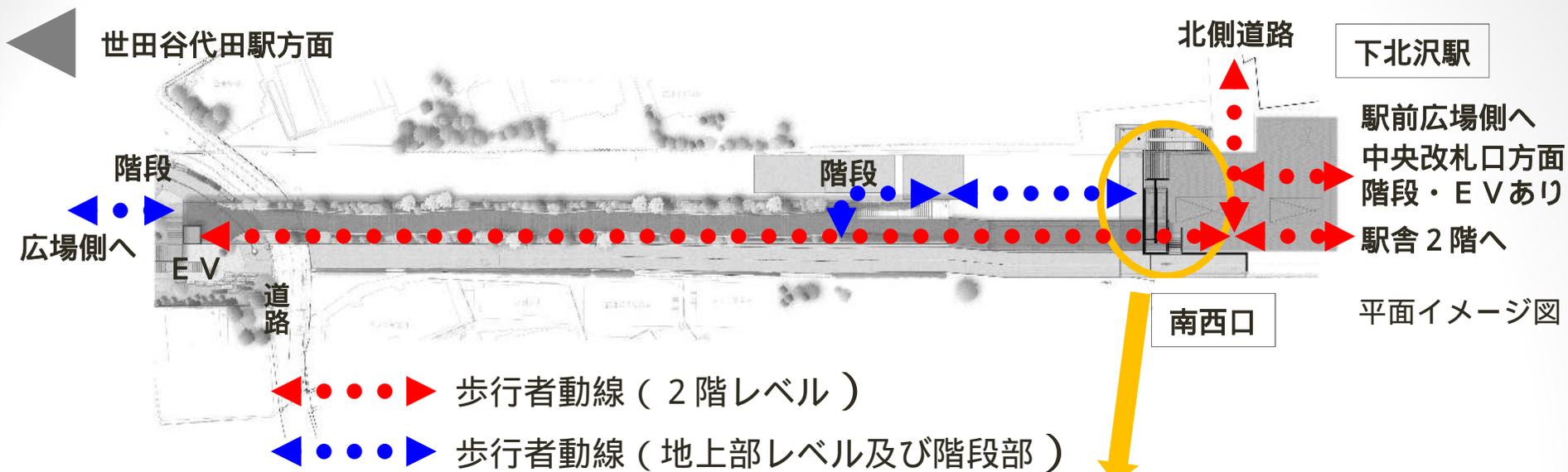
公共施設設計内容等 （立体緑地）

- 平成29年9月報告会の区民意見等
- 立体緑地の設計内容について

主な区民意見等

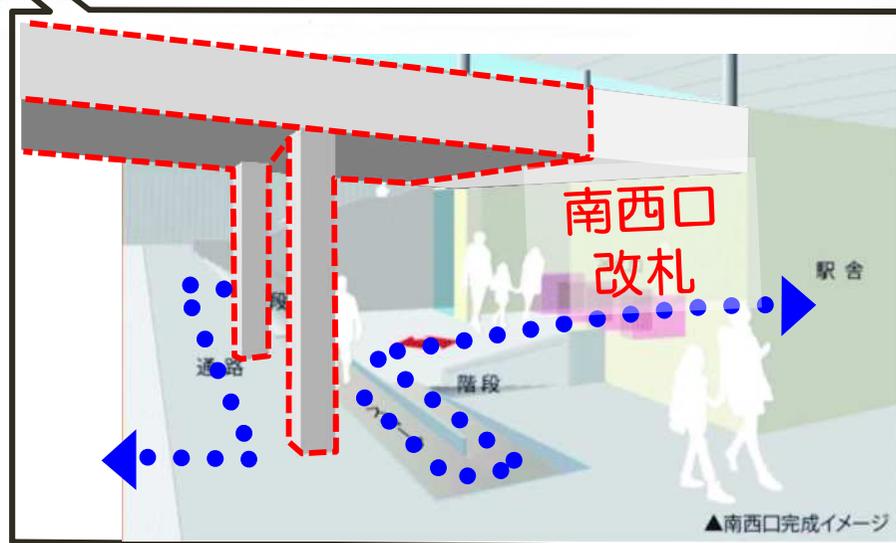
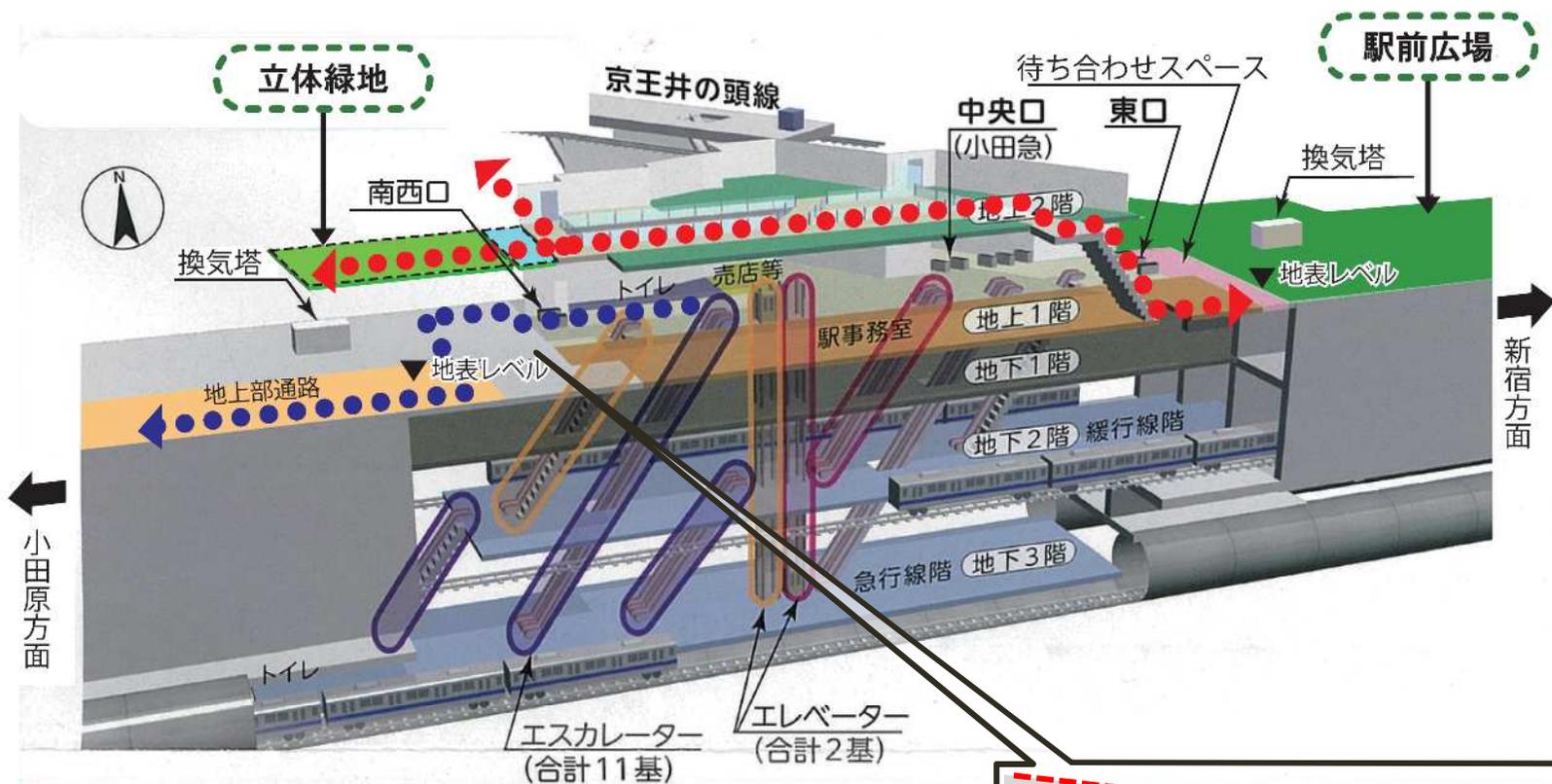
全体計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・31年度完成と言わず、もっと早く完成することを望む。 ・誰かを誘って歩きたくなる。自分たちの人に自慢できる場所、そういう魅力をきちんと作ってください。 ・区が担当する工事計画だけではなく、小田急ゾーンの方針もまじえて説明を求める。 ・区の行政に携わる業務では環境面も含め、地域全体の構想にもう一步踏み込んでいただきたい。 ・南北の高低差を活かしたデッキや、どのように回遊性を実現できる計画なのかイメージがわからない。 ・全体の説明会を多く開催して欲しい。 ・下の通路も含めて一体的にデザインすると、非常に良いと思います。
立体緑地のデザインについて	<ul style="list-style-type: none"> ・立体緑地のみどりについては、結構多くてよい。 ・橋脚足元のコンクリートや駐輪場が見えるため、駅へ向かう通路なので考慮が必要。緑化ウォールして分けるようなデザインにしてはどうか。 ・立体設備は不要と思いますが、デザインの見直しは必要だと思います。すてきなデザインをお願いします。 ・照明はまぶしくなく雰囲気が良い、低い照明(フットライト)にして植栽の中に隠すと良いのではないか。 ・陸橋のサイドの外観が寒風景、緑でおおうなどして景観に配慮して欲しい。 ・橋の柱足元の基礎はない方がよい。ある場合もメッシュと緑でカバーするとか、ベンチとして利用できるようにするなど、アイデアのあるデザインでカバーして欲しい。 ・立体緑地にもベンチなど、とどまれる場所が欲しい。 ・手すりのごつくて、かなり目立つと思われるため、シンプルなデザインにしてはどうか。 ・ハイラインは ウッドデッキのように見える仕上げをされていて好印象です。色も明るめの方が良いような気がします。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・訴訟をできており、区は意思表示をし、平成28年3月に和解が成立している。立体緑地の計画が決まった中で、ワークショップをしており、和解後の話がない。さらに発展し、調整すると意思表示をしているのに、立体緑地を進めるのか。再考すべきである。 ・立体緑地なんて不要。建築コストや維持費に、いくら使うのか、知らされていない。いつか起きる地震の事を考えたら立体緑地のない、平面状態を保った方がよい。駐輪場を作るなら、元々高架になっていて今後も高架の井の頭線の下を利用すればよい。同じお金を使うなら、図書館とか体育館とか、今の下北沢に無い施設を作るべきだ。 ・駐輪場が多すぎる感がある。 ・駐車場スペースが広すぎる。

立体緑地の歩行者動線について

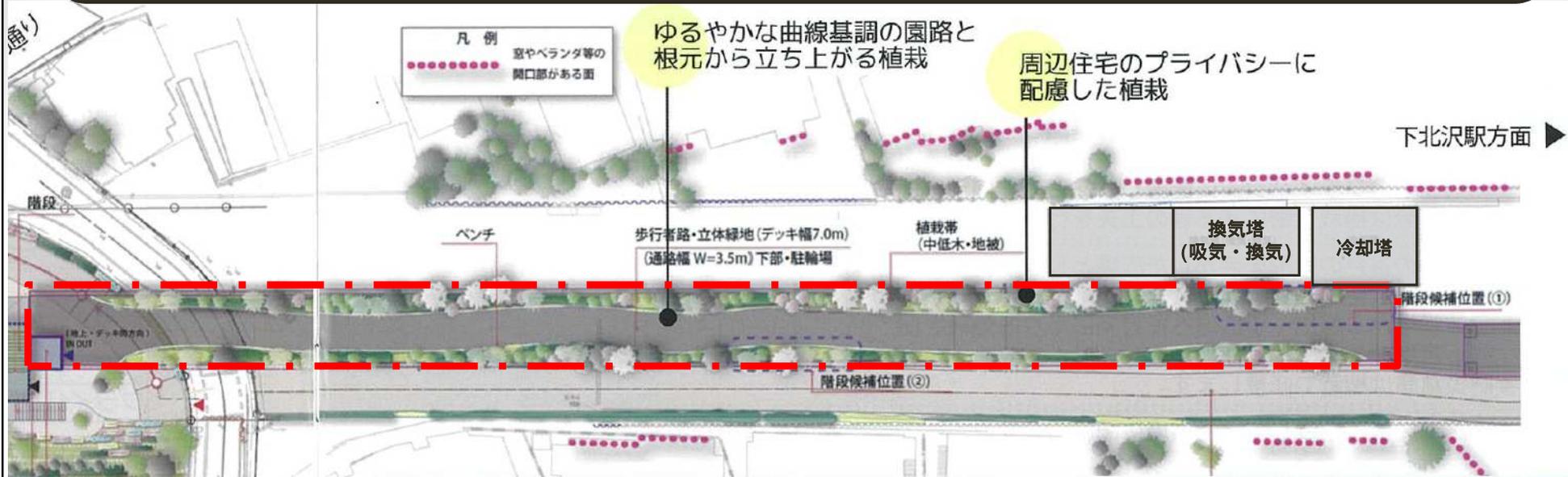


立体緑地の歩行者動線について (下北沢駅舎及び駅前広場とのつながり)

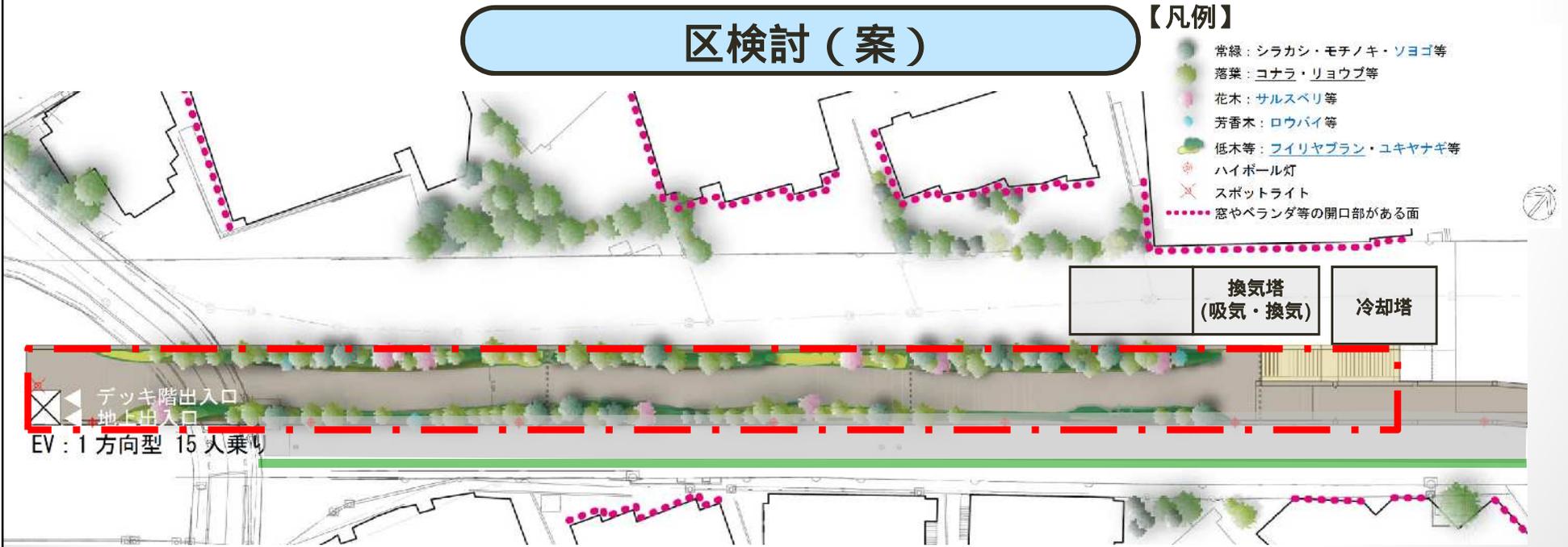
断面イメージ図



第3回ワークショップにおいて提示した立体緑地整備イメージ（案）



区検討（案）



区検討 (案)

溜まり空間の確保
非常時の滞留空間の確保

【自然的な空間】
【プライバシーに配慮】
植栽帯の幅・植栽計画
周辺住宅への視線を遮るために幅を広くし、植栽密度を高める
四季を通じてたのしむ感じることのできる植栽計画
根元から立ち上がる植栽



エレベータの規模
国ガイドライン推奨
(15人乗)の確保

【歩いて楽しめる】
立体緑地の通路
ゆるやかな曲線を基調とし、植栽帯の幅を変えて計画

- 【凡例】
- 常緑: シラカシ・モチノキ・ソヨゴ等
 - 落葉: コナラ・リョウブ等
 - 花木: サルスベリ等
 - 芳香木: ロウバイ等
 - 低木等: フイリヤブラン・ユキヤナギ等
- 窓やベランダ等の開口部がある面

立体緑地（設え）

舗装

【意見】

ウッドデッキのようなものはどうか
色は明るめの方がよいのではないか



植栽

【ワークショップ】

ゆるやかな曲線基調とし、根元から立ち上がる植栽
周辺住宅のプライバシーに配慮し、開口部分は、植栽を密にする等の工夫

【意見】

密度の多い植栽をめざして欲しい



ベンチ

【意見】

近隣への配慮を鑑みただ中で、一人用のスツールを点在してはどうか
立体緑地にもベンチなど、とどまれる場所が欲しい

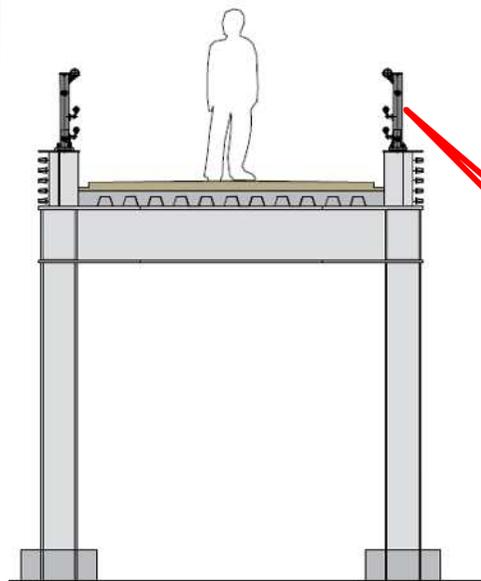
高欄

【意見】

植栽にとけ込むシンプルなデザインにできないか
つる植物で覆い隠すのはどうか



立体緑地（設え）

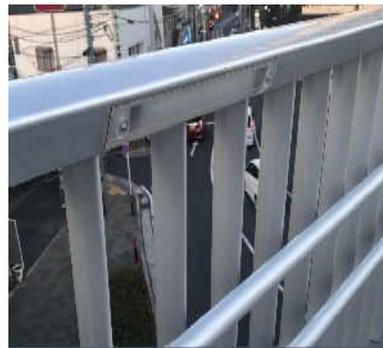


照明

【意見】

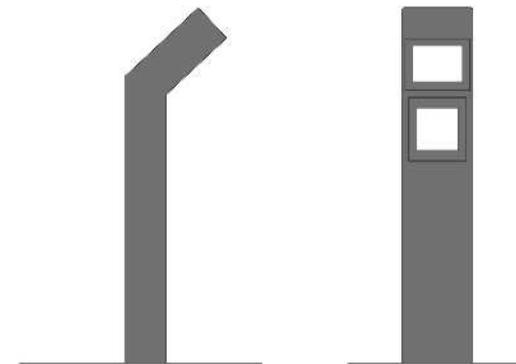
照明はまぶしくなく雰囲気が良い、低い照明（フットライト）にして植栽の中に隠すと良いのではないか。

立体緑地の照明は低くできないか。



【高欄部分の照明】

LED照明器具

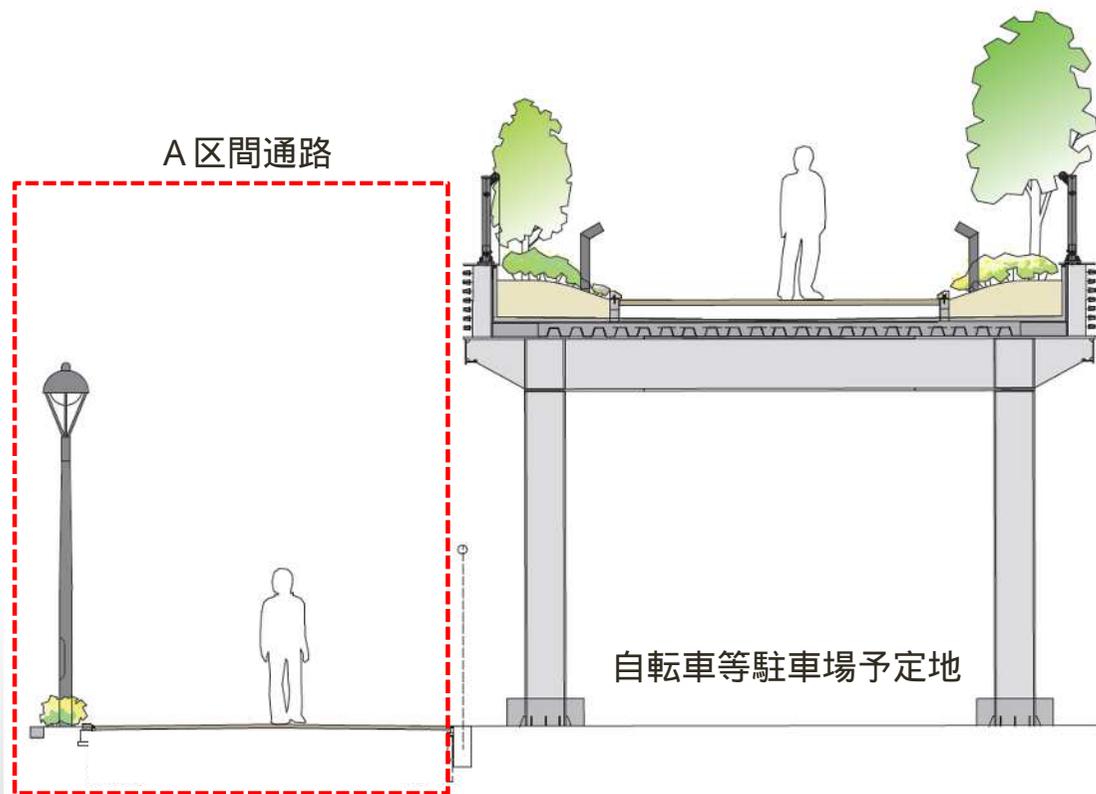


【ローポール照明】

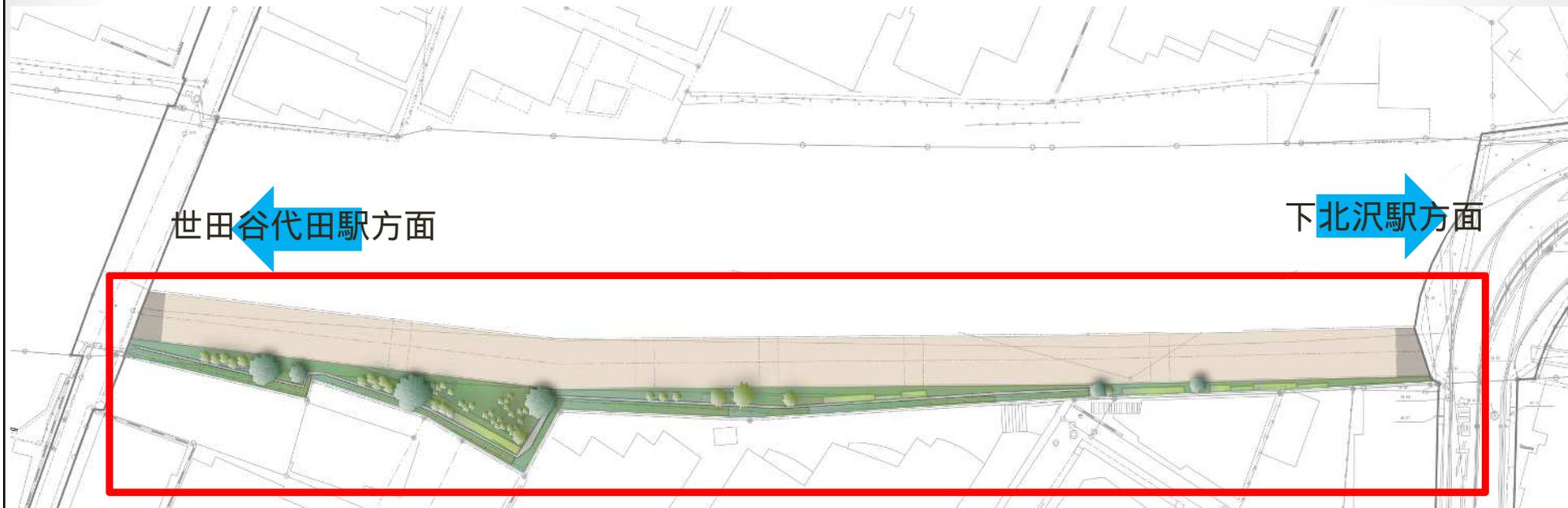
LED照明器具
高さ0.85m
(通路舗装面から)

公共施設設計内容等 （通路：A区間、C区間）

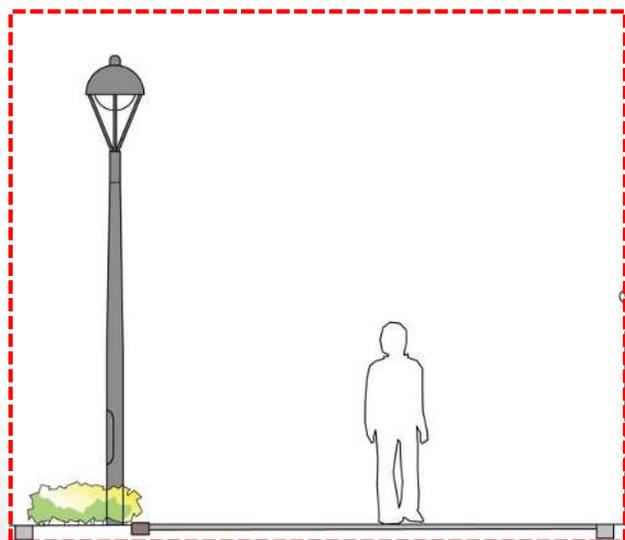
区検討(案)「A区間通路」



区検討(案)「C区間通路」



C区間通路



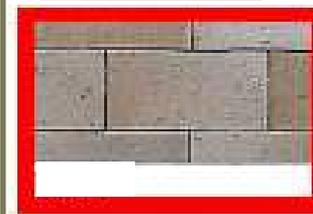
自動車等駐車場予定地



舗装材
自然石舗装



取付部舗装材
インターロッキング
ブロック

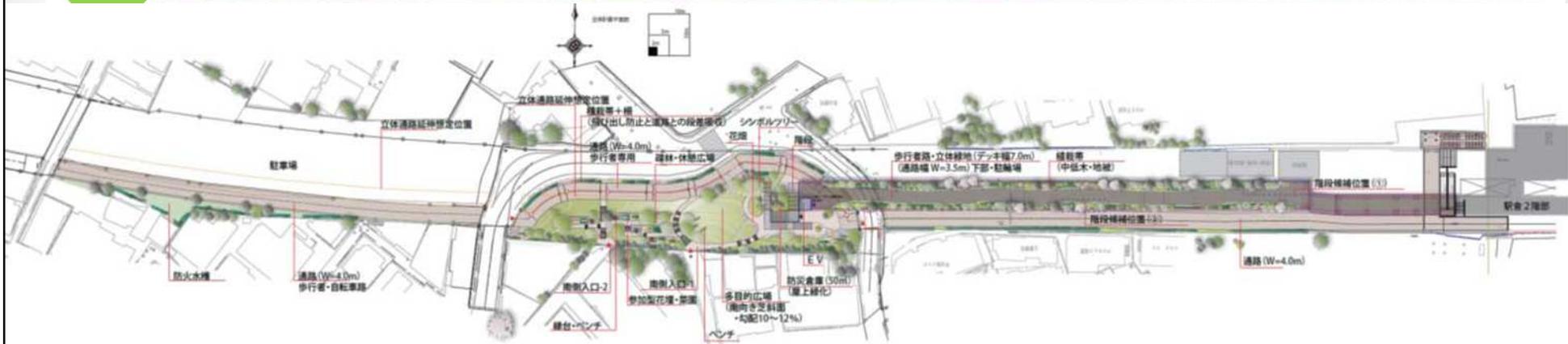


縁石
レンガ

公共施設設計内容等 （緑地・小広場）

- ・ 緑地・小広場の設計内容について

第3回ワークショップにおいて提示した整備イメージ（案）



コンセプト“みんながつながる緑の庭”

【みんながつくる緑の庭】

回遊のきっかけとする装置としての緑／みんなで守り育てる草花で多様な彩と表情を付加する庭

【まちの記憶を継承する庭】

商業空間、文化の発信地、住宅地等の多様な表情と呼应しながら、まちの記憶を継承する庭

【みんなが交流する庭】

イベントもできる空間（文化活動の場）を確保し、多世代が交流する庭／みんなが使いこなす庭

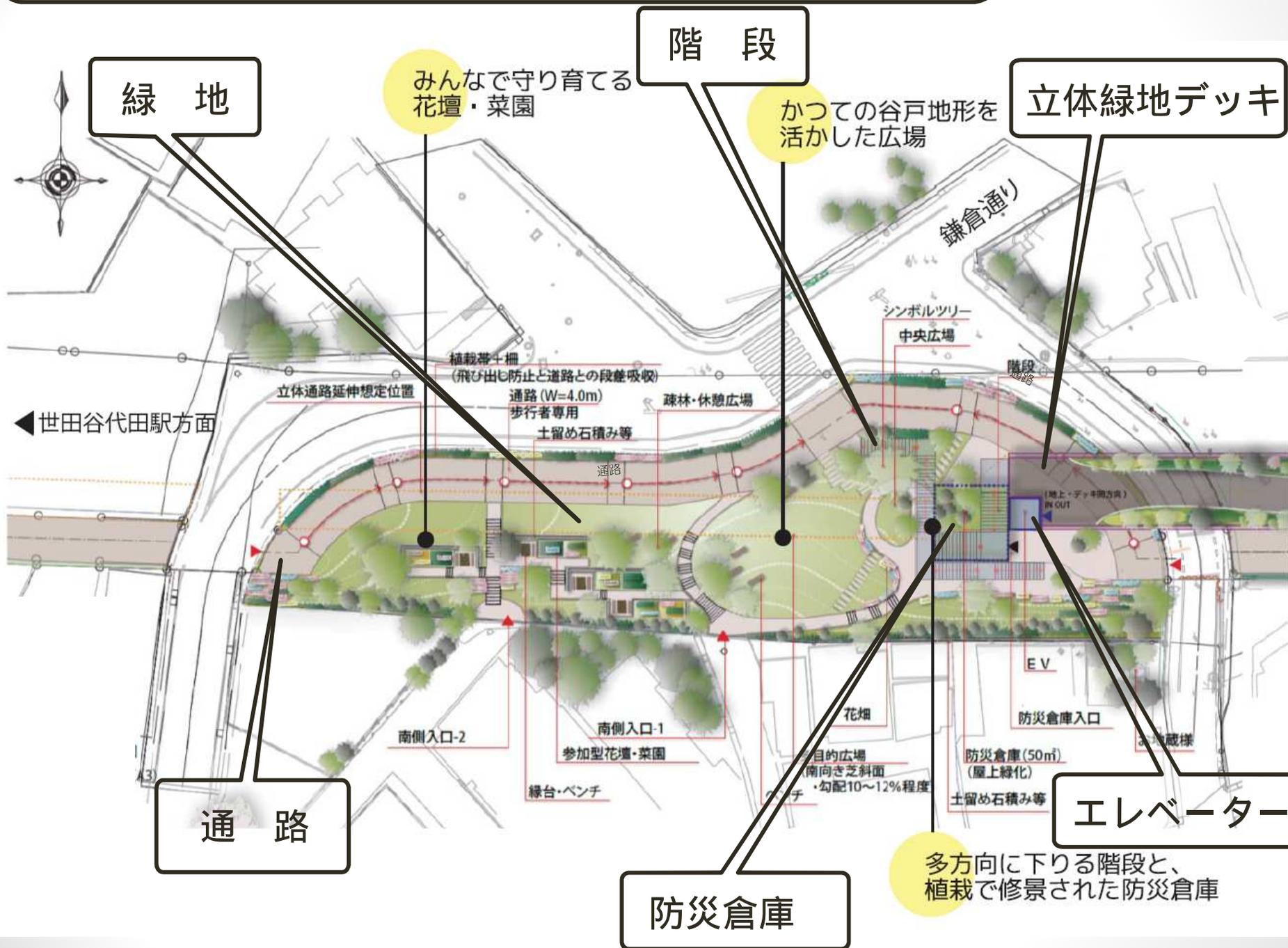
全3回ワークショップの成果と今後の課題

全3回のワークショップの成果と今後の課題は、以下のとおりです。

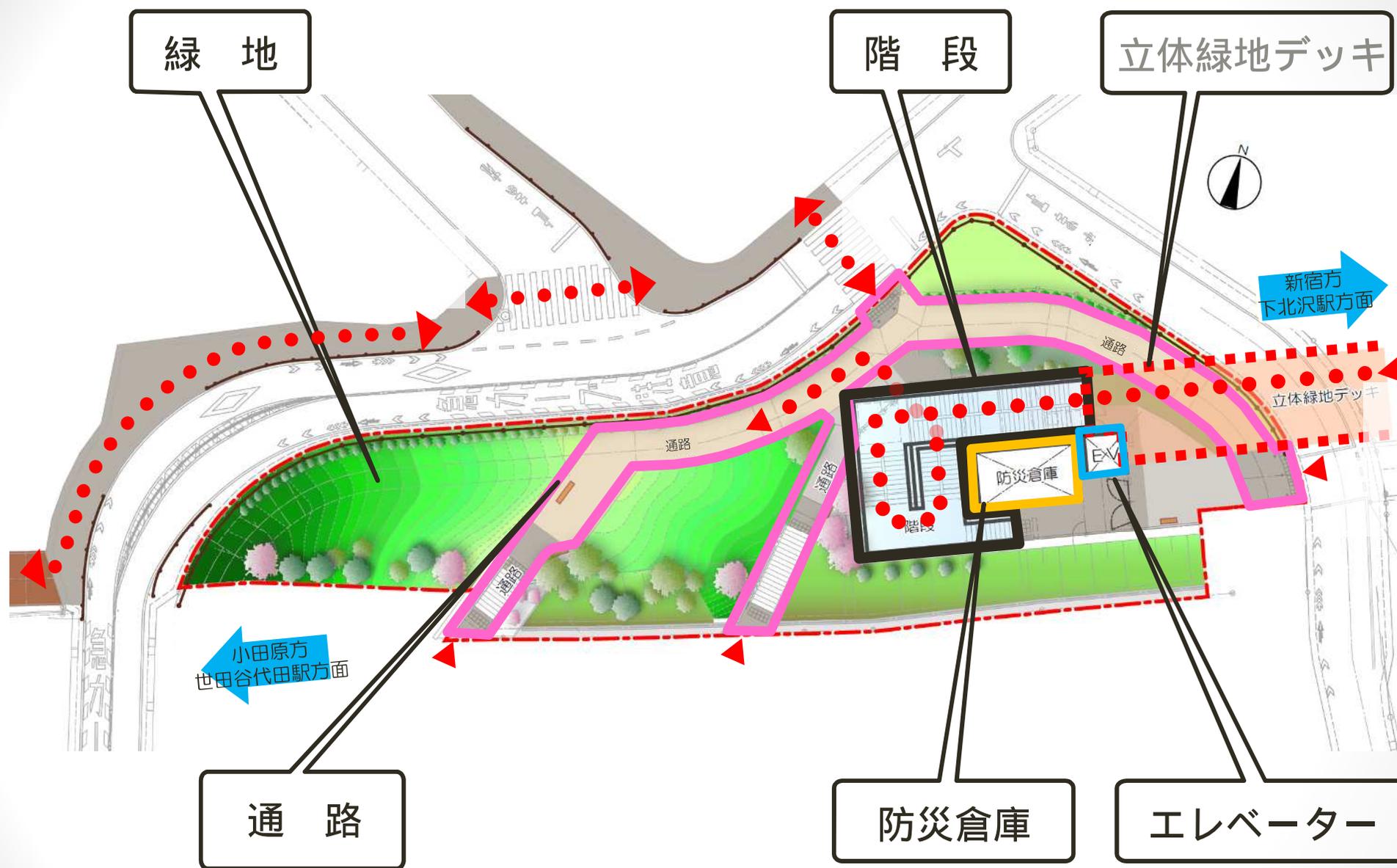
	成果	今後の課題
全体	<ul style="list-style-type: none"> 「みんながつながる緑の庭」をコンセプトとして整備します。 	<ul style="list-style-type: none"> 植栽の維持管理について
A区間	<ul style="list-style-type: none"> 立体緑地の通路は、ゆるやかな曲線基調とし、根元から立ち上がる植栽を配置します。 周辺住宅のプライバシーに配慮し、住宅の開口部に面する部分は植栽を密にする等の工夫を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な植栽やしつらえについて 自転車の通行ルールについて
B区間	<ul style="list-style-type: none"> かつての谷戸の地形を活かした広場とします。 シンプルな空間とします。 立体緑地から緑地・小広場へ多方向に下りる階段を配置します。 防災倉庫は植栽で修景します。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地・小広場の利活用や管理、運営方法について
C区間	<ul style="list-style-type: none"> 通路沿いには植栽して、住環境に配慮します。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の通行ルールについて

緑地・小広場の構成要素

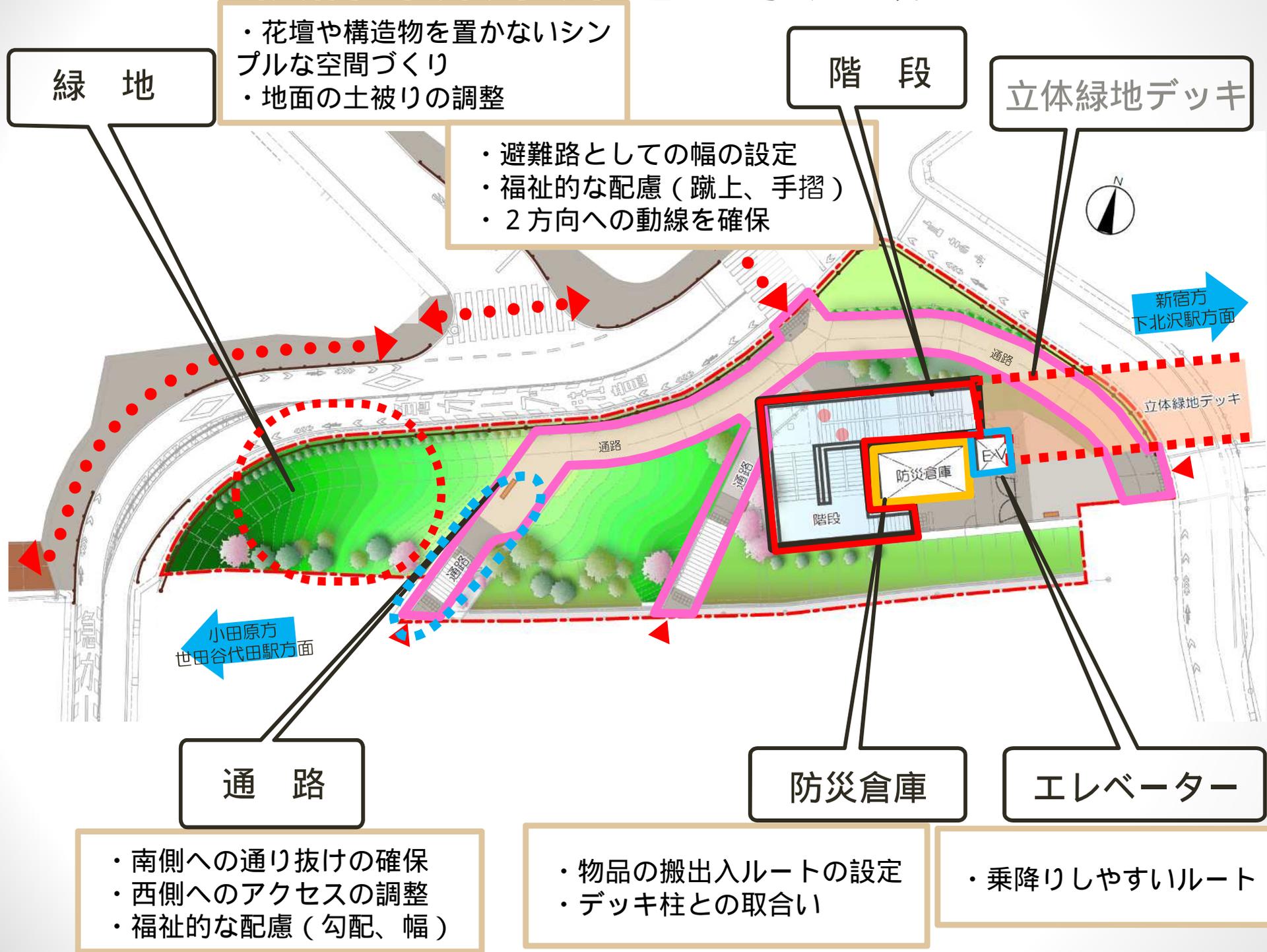
第3回ワークショップにおいて提示した立体緑地整備イメージ(案)



区検討（案）緑地・小広場の構成要素



区検討（案）緑地・小広場について



区検討（案）についていただいているご意見

「緑の庭」をもっと広く、
確保して欲しい

・樹木の種類や植え方など、
維持管理も含めて考えたい。



・立体緑地の階段を
もっと小さくできないか...

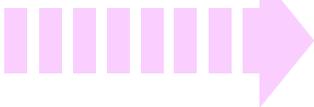
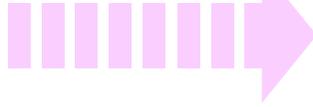
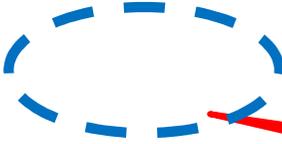
西側（代田側）へ安全に横断
できるように検討してほしい...

・通路で、緑地を分断してしまっている。
・最小限の通路でも良いのでは...

スケジュール

小田急線複々線
完成

小田急線連続立体
交差事業等完了

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)
立体緑地本体部 整備工事(植栽 等含む)			本体部分等 
立体緑地地中部 分基礎整備工事 (一部)	一部基礎 	一部基礎 	
緑地・広場等 整備工事			緑地・広場等 
報告会			

立体緑地設計内容
等報告会

本日

下北沢駅西側エリア検討